

そ の 他

イギリスナースングスタディーツアー事前視察報告書

荒 賀 直 子・城 宝 環

A Report of pre visit for Nursing study tour in the UK

ARAGA Naoko and JOHO Tamaki

I 初 め に

甲南女子大学看護学科において、なぜこのツアーを実施しようと考えたのか？という点について少し述べてみたいと思います。その理由の一つ目は甲南女子大学の大きな目標として国際性豊かな学生を育てることを掲げていること、二つ目は本学が古くから国際的に開かれた神戸の地に有り、現在神戸は国から医療特区に指定されており海外からの患者の受け入れを進めていること、三つ目は国際的に看護で活動したいと思う学生が増えてきており、また入学してくる学生の英語力が比較的高いこと等があげられます。これらのことを基本に置き看護学科で国際化に必要な教育をどのように進めていくのかを考えました。他大学でも短期研修で多くの国に学生を行かせていますが、単なる見学に終わらず短期研修をした後で学生が達成感を感じる研修はどうあるべきか等々検討しました。その結果やはり看護推進の原点となったナイチンゲール誕生の地であり、近代看護発祥の地であるイギリスで、異文化の中での看護を学び視野を広げでほしいと考えました。そのうえで甲南女子大学オリジナルプログラムを受け入れてくれる大学をリサーチしました。今回視察に行った理由はやはり受け入れてくれた大学がどのような大学なのか、学生が短期とはいえどのような環境で生活するのかを含め、一度は私自身が確認しておきたいということがあり今回の視察に至りました。この紀要に投稿したのは、看護学科の教員のみならず他学部の先生方にも何故

看護学科がイギリスに行くことになったかの経過をご理解いただき今後のご支援をいただきました。と思い報告書として書かせていただきました。

今回の視察が成功したのは多くの方々のバックアップがあったからだと思います。感謝申し上げます。

II 視察内容について

1. 視察場所

カンタベリー市内、カンタベリー クライストチャーチ ユニバーシティー（以下 CCCU とする）構内 ロンドン市内の一部

2. 目的

2015 年 3 月に行われるイギリスナースングスタディーツアーにおいて、CCCU スタッフとツアースケジュールの詳細の確認を行い、また、研修を行う上での大学施設・環境の状況把握、カンタベリー市内、ロンドン市内の治安や生活環境などの確認も含め、ツアースケジュール全体の確認を行うことを目的とした。

3. 実施日時

2014 年 8 月 24 日（日）～ 29 日（金）合計 6 日間

4. 視察実施者

看護学科：荒賀直子、城宝 環 英語文化学科：S Brown（CCCU のみ）

5. 打ち合わせ会議への CCCU 参加者

・ Mark Hall BA (Hons) PGDipCG QCG（マーク

ホール氏 International Recruitment Officer, International Office)

- ・ Libby Peatman, Programme Director of General English (リビー ピートマン氏 英語クラス担当者)
- ・ Professor Tony Lavender, Pro-Vice Chancellor (トニー ラベンダー教授 副学長 Research and Knowledge Exchange)
- ・ Dr. Alison Eyden, Principal Lecturer (Dr. アリソン エイデン 保健健康学部講師責任者)
- ・ Peter Ellis, Academic Team Lead, Programme Director UCPD Interprofessional Practice (他職種連携実習), Nursing and Applied Clinical Studies (ピーター エリス氏 アカデミックチームリーダー UCPD (Undergraduate Continuing Professional Development (学部継続専門職開発) 他職種連携実践、看護・応用臨床研究 看護学科プログラムディレクター)
- ・ Holly Richardson (ホリー リチャードソン氏 学生寮の担当者)
- ・ Catherine Scarlett (キャサリン スカーレット氏 BA (Hons) BTEC Moving and Handling (Adv) Instructor/Demonstrator 看護実践の演習専門担当者)
- ・ Nerys Brick (ネリス ブリック氏 Senior Lecturer in Adult Nursing and Critical Care Pathway Director - IPL Adult Nursing Lead for Part Time Students (看護学科成人看護学 講師)
- ・ Sue Kendall-Seatter (Director of International Partnership and Development 国際交流セクションのディレクター)
- ・ (Dr. Stephen J O'Connor (スティーブ オコナー教授 Principal Lecturer & Honorary Reader, England Center for Practice Development, Department of Nursing & Applied Clinical Studies, Faculty of Health and Social Care) 現在療養中の為欠席)

6. ツアー全体のスケジュール確認

担当者：Mark Hall BA (Hons) PGDipCG QCG (マーク ホール氏 International Recruitment Officer, International Office) とプログラム全体の確認を行った。15日間のプログラムについては、予定通りのプログラムで問題はなく、このプログラムで進めていくことの確認を行った。タイムスケジュールについては Mark Hall 氏から掲示されたスケジュールで行う。(資料参照) 時間については、午前は 9:00 ~ 12:30、昼休憩は

12:30 ~ 13:30、午後は 14:00 ~ 17:00 の予定で行う。初日 3月2日 (月) に関しては、午前中にオリエンテーションを行う為時間は変則となっている。

3月1日 (日) 到着日のスケジュールについては、最終的なツアー参加人数や、イギリスへの到着時間により現在のところ詳細は未定である。到着日のヒースロー空港から CCCU まで、週末のロンドンまでの送迎に関しては Mark Hall 氏がアレンジを行う。送迎費用や、滞在場所に関しては、最終人数が確定してから概算が出る。KWU での最終募集人数の決定については 12 月中旬までに行うこととすることを確認した。3月1日 (日) 到着日に関しては、寮までの案内を M Hall 氏が行えるが、寮での生活は自炊となる為、スーパーマーケットや、市街地の案内等 KWU の教員が行う必要がある。また、日曜日は市街地のスーパーマーケットやショップは 5 時頃で閉店となる為、カンタベリーへの到着時間によっては、イギリス到着日を土曜日 (2月28日 (土)) など、生活環境に慣れる、また体調の調整等の為に 1 日予備日を作ることも検討する必要がある。



7. 英語プログラムについて

英語プログラム担当者：Libby Peatman, Programme Director of General English (リビー ピートマン氏 英語クラス担当者) と会い、スタディツアープログラムの確認を行った。3月2日 (月) ~ 13日 (金) までの計 10 回で行い、初日の 3月2日は午後クラス (13:30 ~ 17:00)、3月3日以降は 9:00 ~ 12:30 までの午前クラスとなる。場所についてはキャンパス内にある教室を使用し甲南女子大学の学生のためのクロードクラスとなる。

英語教員については、Libby Peatman 氏は調整

役となり、直接教える教員は未定であるが、英語プログラムのテーマに沿って、ワークブックを使用しながらオリジナルの資料を使用し、医療英語を含む専門的な授業を展開する。

看護の初学者であり Speaking が不得意であることなども把握しながら、授業展開を行っていくことを話し合った。プログラムの進捗として、KWU の学生の英語レベルに合わせて調整していくことも可能であるとの確認を行った。CCCU では海外からの留学生を多く受け入れており、英語のレベルに沿って調整することが可能である。また本プログラムについてはテーマが決まっており、それに合わせてオリジナルの資料を準備されるとのことであった。



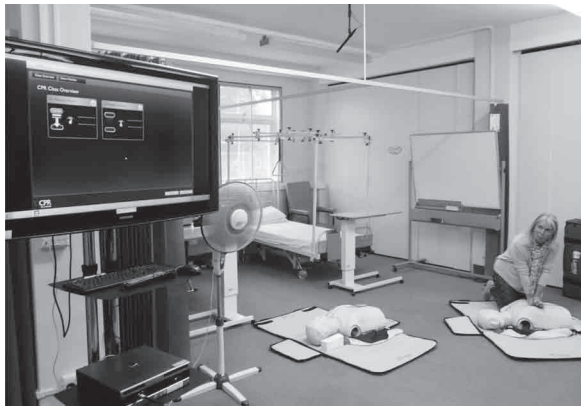
8. 看護プログラムについて

Dr. Alison Eyden 氏、Principal Lecturer (Dr. アリソン エイデン 保健健康学部講師責任者)、Peter Ellis 氏、Academic Team Lead, Programme Director UCPD Interprofessional Practice, Nursing and Applied Clinical Studies (ピーター エリス氏 (アカデミックチームリーダー UCPD (Undergraduate Continuing Professional Development (学部継続専門職開発) 他職種連携実践、看護・応用臨床研究 看護学科プログラムディレクター) 会い、CCCU の看護コースについて説明を受けた。現在 Prof. S O' Connor 氏は療養中のため、今回の視察では会えなかった。看護プログラムについては Prof. O' Connor が中心となって進めていく予定であり、9 月から復帰することになっている。2 日程で予定している施設見学などは Prof. S O' Connor 氏が緩和ケアなどを中心に研究などされており、施設の詳細については、復帰後に検討することとなるため、今回のミーティングでは決定できなかった。ただ施設見学に関しては、一度に 10 名が見学することは難しいため、

3～4 グループに分けて順番に回るといった形をとったほうが良いと提案された。施設見学時の服装に関しては、現地の職員と紛らわしく、患者に混乱を招くため私服での見学とする。その他、演習を行う場合はナース服を着用することは可能である。

看護の演習に関しては、Nerys Brick 氏、Catharine Scarlett 氏とお会いし説明を受けた。演習室の管理や調整を Nerys Brick 氏が行っている。実際に CCCU の看護学生が使用している演習室を見学した。演習等に使用される物品や必要機材等は本学の演習室と同様である。演習室ではシミュレーターマネキンを使用しており、バイタルサインの測定や、採血、点滴、肺音の聴取、吸引など様々な場面に応じて演習を行っている。演習室の中には、病院実習でも ER の研修もあるため、ICU を想定した個室も完備しており、実習の合間をぬって学内での自己学習に CCCU の学生が使用している。演習室内では、病院と同様の療養環境を完備しており、ベッドの種類も病院によって使用している物が違うため、古いタイプから最新の電動式ベッド、ストレッチャー、酸素、吸引物品などあらゆるものを用意している。演習では各学年の演習項目によって違うが、数名～10 名が一つのベッドを使用し実践的な演習を行うことができる。今回のツアーでも、CCCU の学生と共に演習室を使って、CPR の演習やその他の実践を共に行うことは可能である。しかし、CCCU の 1～3 年の、どの学年の学生と演習を行うか、また、どのような内容を行うかなど詳細については 3 月のスケジュール、授業の時間などの調整が必要であり、現時点では決定できない。本ツアーで KWU が希望する演習内容など要望があれば、それを基に検討していくことが可能であることなどの確認を行った。





9. 滞在寮について

Holly Richardson (ホリー リチャードソン氏 学生寮の担当者) にお会いし、キャンパス内に数か所点在している中の2か所を見学した。寮内は現在夏期休暇中の為滞在中の学生はいなかったが、各個室の状況、キッチン、シャワールーム、トイレなど学生が生活する場面を見学した。今回候補として挙げられている寮の視察に関しては雨の為移動が難しかったため、部屋の環境など同様の建物を見学した。

セキュリティーは入り口がカード式になっており、寮生以外の者が入ることはできない。寮内は各個室(4、5～6畳程度の広さ)にシングルベッド、勉強机、クローゼットが完備されている。部屋によってトイレ・シャワーがついているところがあるが、ない部屋でも各階に共同のトイレ、シャワールーム、キッチン、ラウンジが完備されている。バスルームはない。キッチンでは、自炊できるよう冷蔵庫など整備されている。洗濯は寮外になるがコイン式ランドリーも使用できる。緊急時など、寮での不明な点はセキュリティーがキャンパス内にあり、24時間担当者が常駐しており対応している。

各部屋は、インターネットに接続できる環境であるが、事前に登録が必要となる。どの寮を使用するかはツアー参加者の人数によっても変動する

が、各寮では1フロア8～10部屋ありなるべく1つの寮にKWUの学生が滞在中の方が望ましい。寮の滞在費はトイレ、シャワー付きの部屋と、ついていない部屋とでは多少差はあるが、大よそ£110/週程度である。各部屋にあるバスタオル等は借りることができるが、日用品等は各自で準備する必要がある。寮に宿泊することについては、10名程度であれば、アレンジすることは可能であるが最終人数が決定し次第、詳細を検討していくとの確認を行った。



10. キャンパス内の環境について

Mark Hall BA (Hons) PGDipCG QCG (マーク ホール氏 International Recruitment Officer, International Office) により、Augustine House 内、キャンパス内を見学した。Augustine House 1階では学生登録やその他手続き等を行うセクション(学生生活課、教務課にあたる)や、International Officeがある。また1～3階までが図書館になっており、学生が自己学習を行えるようPCも完備されている。授業時など必要時のノートPCの貸出も行っている。3階では図書館内にグループでの話し合い等ができる個室も完備されており、本プログラムでのプレゼンター

ションの準備などに使用できる。本の貸し出しなども登録を行えば可能であり、PCの使用、印刷、部屋の使用も可能である。キャンパス内は他学科のキャンパス等もあり、Augustine Houseから他のキャンパスまでは徒歩10～15分内で移動できる。またキャンパス内を移動できる無料バスもあり、ツアー中も使用できる。構内にはBook Shopなどもあり学習しやすい環境となっている。

ツアー中の昼食については、キャンパス内に数ヶ所カフェテリアがあり、サンドイッチや飲み物、スナックなど購入することができる。オープン時間は朝8時から夜7時まで開いており、メインのカフェテリアは現在工事中であったが、そこでも£5～10で暖かい食事など食べることができる。



11. カンタベリー市内について

カンタベリー市内中心地にCCCUがあり、キャンパスが点在している。キャンパスから市街地へは徒歩圏内であり、カンタベリー大聖堂やセント・アウグスティヌス修道院跡など歴史的な建物がある他、博物館等もある。今回の視察では市街地を徒歩で巡り、カンタベリー大聖堂の他、14世紀頃の巡礼者の宿として使用されていたイーストビレッジ病院を建学した。生活環境としては、キャンパスから徒歩10分程度でスーパーマーケットやカフェなどがなるハイドリットがあり、過ごしやすい環境といえる。カンタベリー大聖堂は7世紀に建設されイングランド国教会の総本山であり聖地として、また世界遺産として登録されており、多くの人々が訪れる地でもある。CCCUの学生の卒業式はこの大聖堂で行われている。治安面では、イギリスの比較的小さな地方都市であり、私たちが2日間滞在中に街中を路地の奥まで見て確認するとともに、CCCUの教員等に確認した範囲では危険なところはなく学生にとって過ごしやすい都市といえる。





し、夜間の外出等は避ける方が望ましいと考える。今回見学中に日本人女性でかなりの年配者で家族とはぐれ、帰るホテルの名前もよく覚えていないため困り果てた人が私たちに声をかけてきた。城宝先生がロンドン市内の地理的環境を良くわかっていたので事なきを得たが、学生たちがロンドン市内観光に行く際の注意事項について気付かされることにつながった。



12. ロンドン市内について

今回の視察では、ナイチンゲール博物館の見学、国会議事堂、ロンドン塔、ロンドンブリッジ、バッキンガム宮殿、ピカデリーサーカス等市街中心地、ハロッズデパート、リバティーデパートなどロンドン市内のツアーにおける主要な観光施設を駆け足で外観の見学をした。ロンドンはあいにくの雨、気温も低く、水たまりを避けつつマフラーを巻いて寒さを防ぎながらの見学となった。ナイチンゲール博物館では、案内地図に沿って、ナイチンゲールの生い立ちからクリミア戦争の時代の活動、また看護の功績について3つのセクションに分かれ、看護について学ぶことができる。すべて英語での説明となり、日本語ガイド等はない。所要時間1～2時間程度と考える。その他、ロンドン市内は地下鉄・バスで移動可能であるが、交通事情など日本とは異なり移動にも時間がかかる。治安面としては、カンタベリーに比べると大都市であり、多くの国からの観光者も多く、不慣れた土地でもある為、日中の行動でも複数で行動





13. 今回の視察を振り返って

実際に現地に赴いて学習環境、生活環境等を見、プログラムの進行等々について CCCU のメンバーと顔を合わせて詳細に話し合えたことは双方にとって良い方向性が持てたと思う。学生を海外で学習させるに当たっては様々な気があるが今回視察してきたことでかなりの部分は払拭できた。学習内容についてはまだ詳細に詰めていく必要があるが一歩が踏み出せたことは、今後の学生募集の進め方も明確になった。CCCU では国際化のプログラムを進めており、今年度は行わないが将来的には単位互換制度や交換留学等々についても検討していきたいとの意見も出され、本学も前向きに検討していきたいと考えている。

2014年度 甲南女子大学 英国 カンタベリークライストチャーチ大学 ナーシングスタディーツアー 15日間

日	月/日/曜日	地 名	現地時刻	交通機関	日 程
1	2015年 3/1 (日)	伊丹空港発 羽田空港着 羽田空港発 ロンドン着 カンタベリー	朝 午前 夕方	航空便	国内線にて空路羽田空港へ 羽田到着後、出国手続きを済ませロンドンへ 乗り継ぎ ロンドン到着後、入国手続きをすませ、専用車にて CCCU へ CCUU 到着後、宿泊場所へ
2	3/2 (月)	カンタベリー	午前 午後		午前： CCCU にてオリエンテーション、キャンパス・シティーツアー 午後： English Class 1 "Meeting, greeting and introducing yourself"
3	3/3 (火)	カンタベリー	午前 午後		午前： English Class 2 "Family life and culture in the UK" 午後： Nursing Class 1 イギリス在住の日本人看護師による講義 ("What roles do nurses perform in the UK?" も含む)
4	3/4 (水)	カンタベリー	午前 午後		午前： English Class 3 "Parts of the body" 午後： Nursing Class 2 (Lecture + work or discussion) "The UK healthcare system"
5	3/5 (木)	カンタベリー	午前 午後		午前： English Class 4 "Common symptoms and ailments" 午後： 地域の病院またはホスピス見学
6	3/6 (金)	カンタベリー	午前 午後		English Class 5 "Activities of daily living" 午後： 自由行動
7	3/7 (土)	ロンドン	終日	専用車	終日：ロンドン市内観光 (観光内容) ナイチンゲール博物館見学、ハロッズ、ピックベン、バッキンガム宮殿など 《オプション》ロンドン1泊
8	3/8 (日)	カンタベリー	終日		《オプション》ハリーポッタースタジオ見学ツアー 注) ロンドン発着のツアーのため、前日からロンドンに宿泊されるか、もしくは早朝にカンタベリーからロンドンへ移動する必要があります。 オプションに参加される場合は、ホストファミリーによる昼食の提供はございません。
9	3/9 (月)	カンタベリー	午前 午後		午前： English Class 6 "Expressing feelings, fears and anxieties" 午後： 地域の看護施設訪問
10	3/10 (火)	カンタベリー	午前 午後		午前： English Class 7 "Vocabulary for basic nursing assessment and interventions" 午後： Nursing Class 3 英国の看護学生と医療スキルに関する合同レクチャー・演習
11	3/11 (水)	カンタベリー	午前 午後		午前： English Class 8 "Understanding medical and nursing instructions" 午後： Nursing Class 4 (Lecture + work or discussion) "Person centred care in the UK"
12	3/12 (木)	カンタベリー	午前 午後	各自 各自	午前： English Class 9 "Vocabulary for basic medical investigations" 午後： 参加学生によるプレゼンテーション準備 (KWU アレンジ)
13	3/13 (金)	カンタベリー	午前 午後	各自 各自	午前： English Class 10 "Vocabulary for explaining to and teaching others" 午後： Nursing Class 5 参加学生によるプレゼンテーション (KWU アレンジ)・さよならパーティ
14	3/14 (土)	カンタベリー ロンドン発	昼 夕方	専用車	学校へ集合し、専用車にてロンドンヒースロー空港へ 空路、羽田へ ＜機内泊＞
15	3/15 (日)	羽田空港着 羽田空港発 伊丹空港着	午後 夕方 夜		入国手続きを済ませ、国内線にて伊丹へ 到着後、解散